

研修目標と研修内容について

職種名「歯科衛生士レジデント」

1 概要

がん治療に伴う様々な口腔合併症を予防・回避するための歯科治療・口腔ケアの考え方、実践方法を2年間で学ぶ。がん治療全般の知識を備えながら、歯科専門的ケア・治療を実践できる、がんチーム医療の一員となる人材を養成する。

2 研修での到達目標

1) 一般目標

がん専門病院の歯科または歯科・口腔外科の歯科衛生士業務全般に関する理論・技術を習得すること。さらに、がん専門病院で歯科衛生士がおこなう口腔ケアを科学的な視点で考察・検証し、その有効性を広く国民に啓発すること。

2) 行動目標

下記の知識・技能の習得を目標とする。

1. がんと口腔ケア

- 1.1. がんとがん治療に関する一般的な知識を習得する
- 1.2. がん支持療法に関する一般的な知識を習得する
- 1.3. がん支持療法としての口腔ケアの基本的概念を理解する

2. がん治療にともなう口腔合併症と口腔ケア

- 2.1. 手術と口腔ケアに関する知識・技能の習得
- 2.2. 抗がん剤治療と口腔合併症・口腔ケアに関する知識・技能の習得
- 2.3. 放射線治療と口腔合併症・口腔ケアに関する知識・技能の習得
- 2.4. がん終末期と口腔合併症・口腔ケアに関する知識・技能の習得
- 2.5. その他のがん関連治療と口腔合併症・口腔ケアに関する知識・技能の習得

3. がん患者の心とからだ、と口腔ケア

- 3.1. がん患者の心理状態と全身状態に関する知識・技能の習得
- 3.2. がん患者の心理状態・全身状態を理解して口腔ケアを実践する知識・技能の習得

4. 多職種チーム医療

- 4.1. 医師、歯科医師、看護師等の医療者と円滑なコミュニケーションをとり、口腔ケアを実践する技能の習得
- 4.2. 多職種チーム医療の基本的概念について理解する
- 4.3. 多職種チーム医療における歯科衛生士の役割を理解する

5. がん治療における口腔ケアの科学的検証

- 5.1. 病院の臨床研究流れを理解して、臨床研究計画を立案すること
- 5.2. がん患者の口腔ケアの効果の科学的な検証を、臨床研究計画を立案しておこなうこと

3 実習内容

1 年目は主に、がん専門病院における歯科・口腔ケアの基本的技術を習得するとともに、院内の臨床腫瘍学コース（2年間で全コース受講が望ましい）、種々の勉強会や院内カンファレンスへの参加を通して、がん治療全般の知識を習得します。2年目には、外来診療・病棟往診における業務などを通じて、がん医療現場の臨床経験を積むことにより、がん専門歯科衛生士に必要とされる知識や技能を習得します。研修成果のアウトプットの場として、院内口腔ケアカンファレンスでの発表を行います。また、臨床研究に参加して学会発表や論文発表もおこないます。がん治療における歯科衛生士の役割を広く国内外へ発信しなければなりません。

追加で3年目の研究をおこなう場合は、がんの支持療法に携わる歯科衛生士として、多くの症例を経験することで実践的な知識と技能をさらに習熟します。3年目の歯科衛生士レジデントとして、歯科衛生士スタッフとともに1年目の歯科衛生士の指導を行うことで、別の視点からがん専門歯科衛生士としての見識を広めます。臨床研究を実践するために、さらなる学会発表や論文作成を行います。静岡がんセンター主催の歯科衛生士講習会で症例報告等の発表を行うこともあります。以上のように3年目では自分自身が研修を受けるだけでなく、指導者としてのトレーニングも同時に行っていきます。

- (ア) 診療録（電子カルテ）の記載方法の習得
- (イ) 接遇・医療面接方法の習得
- (ウ) 患者に接する際のスタンダード・プリコーションの理解と実践
- (エ) がん患者の全身状態の評価技術（血液検査、バイタルサイン、その他身体所見）
- (オ) がん患者の口腔内状態の評価技術（粘膜炎のCTCAEによるGrade評価、各種口腔感染症の鑑別）
- (カ) 各種がんで行われるがん治療についての一般的知識の習得
- (キ) 頭頸部癌、食道癌術前患者の口腔ケアの実施
- (ク) 頭頸部化学放射線治療患者の口腔ケアの実施
- (ケ) ビスホスホネート系薬剤使用患者の口腔ケアの実施
- (コ) 大量化学療法および造血幹細胞移植患者の口腔ケアの実施
- (サ) 抗がん剤関連口腔粘膜炎患者の口腔ケアの実施
- (シ) がん終末期患者の口腔ケアの実施
- (ス) 小児がん患者への口腔ケアの実施
- (セ) 他職種への口腔ケア方法の指導
- (ソ) 口腔ケアカンファレンスでの発表（2年目で発表）
- (タ) 臨床研究（学会発表、論文発表）への参加